

効果的な書き方をくふうして書こう（6年）

「思いや願いを」

～「あの時、心が動いた」・・・10年後の自分に贈る12歳の心～

●指導目標

これまでの自分の生活を振り返り、今、表現しておきたいことを選び、目的や内容に合わせて効果的な構成や表現を考えて書く。

- これまでの生活や自己を振り返り、今、表現しておきたいことを選び、内容に合わせて効果的な構成や表現を考えて書く。（書く）

●教材について

（１）単元に向かうスタンス～単元の価値～

卒業を目前に控えた6年生の2月。小学校最後の書く単元である。これまで自分が出会ってきた人々、出会った言葉、心の動いた場面を子どもたち自身が日々思いめぐらす時である。中学という新たな世界に飛び込むことへのどうしようもない不安を抱える子もいれば、期待を膨らませ続ける子もいる。そのような時に会うこの単元の果たす役割は大きい。だからこそ子どもたちが自分自身の生き方を見つめ直す作文を書かせる学びにしなければならない。そこには作文の上手、下手という次元を超えた価値がある。書くことによる自分探しであり、書くことによって自分の意志を固めることである。ひいては、卒業に向かって大地をしっかりと踏みしめて立つ、確かでたくましい自分を築くことである。

（２）教材からのプレゼント～教材の価値～

作文例として掲載されている「一枚の写真」から学ぶ点はおおまかに次の3つである。

自分の心を動かした題材とそこから考えを深め、強い決意にまで高めた人間性の豊かさ。

一枚の写真を中心に据え、『現在 - 過去 - 現在』という展開で読み手をひきつけた構成の工夫。

事実と意見・考えの区別、文末表現の変化、会話文などの効果的な表現等、書き表したいことがより強く読み手に伝わるように工夫した叙述。

6年生の日常生活に根ざした良質の作文例である。特に題材選びが最重要課題となる子どもたちにとっては、だれもがヒントを得やすいと同時に非常に共感しやすいものである。

（３）10年後の自分へ贈る12歳の心～自分自身を掘り下げる題材決め～

卒業という節目を迎えた自分自身が多くの人に支えられたことを認識することはこの単元を進めていくうえで非常に大切である。自分の成長の思いや願いを書きつづけることはその方々への感謝の意味につながるのである。子どもたちは書くという作業のなかで初めてそのことに気づく。その場合、相手意識をどこに向けるかは非常に難しい。自分を支えてくれた多くの人に広く伝えようとすることを未来の自分自身に向けて書くことに重ねてみたい。よって書く相手を『10年後の自分』として設定してみたい。「未来の自分に12歳の時の確かに感じた思いや願いを届けよう」と投げかける。「わたしはこのような人、できごとに支えられ、囲まれてわたしになったのだ、と感謝できる作文を書こう」とさらに投げかけたい。『あの時、心が動いた』というネーミングは今の自分にも、そして10年後の自分にも共通するフレーズとなる。

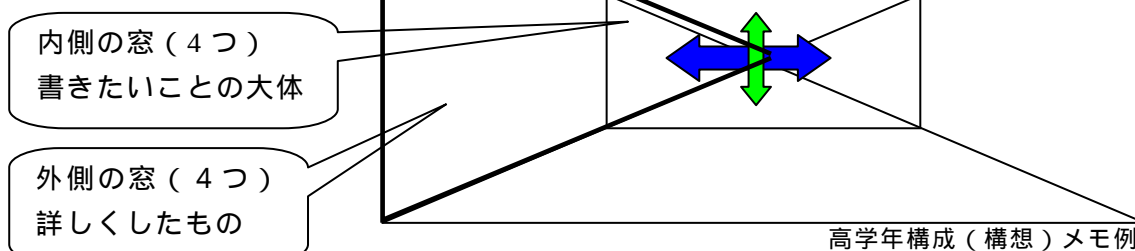
具体的な取材はこれまで書きためたものから振り返ることをもとにする。6年教科書上巻の最初に書くことの日常活動として「創作ノート」という小単元が設定されてある。これを読み返すことから題材を選ぶ（選材する）のが最も効果的である。日記でもよい。とにかく何を書こうとするのかにじっくり時間をかけることが必要であろう。ただの思い出作文で終わらせないポイントは書きためたものを振り返らせる取材活動、そしてそのなかで自分の心の変化、成長がいちばん表せる選材活動が重要である。相手は10年後の自分であり、目的は未来の自分に過去の自分の姿、考えを伝えることである。

(4) 対角線入り二重長方形カード～構想から構成の工夫～

構想メモは書きたい内容を整理し、よりよく文章に表現するためのものである。書きたいことがあってもうまく書けない子どもたちには必要なものである。普通であれば取材、選材をし、構想メモを書いたうえで、構成メモに入る。しかし、構想から構成の間には壁が存在する。この構想メモを構成メモにつなげていく工夫をしたい。かつて大村はま先生が実践されたという「対角線入り二重長方形カード」を使用する。(図参照)

(図) 対角線入り

二重長方形カード



* 太線の三角形が書きたいことの一つのまとまりとなる。

* 図中の のように反対側の三角形が内容的に対になるように意識させる。

例・・・成功したことと失敗したこと、努力の苦しみと達成感と満足感

考えの浅かった自分と考えの深くなった自分、現在の自分と過去の自分

内側の長方形と外側の長方形が対角線によってそれぞれ4つの窓に分かれている。内側に4つの窓が書く内容の大体を書き、外側の窓にそれを膨らませていくものである。これまでの表形式のメモに比べ段違いに意欲的に取り組む。なぜなら構想と構成が一体となっているからである。もちろん構想メモは構成と密接に関係はしても直結するものではない。そのことは子どもたちにも話しておく必要がある。4つの部屋がそのまま「初め—中1—中2—終わり」になるものではないということである。(なっても構わない。)しかしこの構想メモの長所は構想の段階と構成の段階の壁を低くしてくれることである。またこの構想メモのもう一つ長所は対の面が生まれ、それによって作文に深みが増すということである。

(5) 記述チェックポイント～記述力の総まとめ～

これまで段階を経て文章を書く学習を続けてきた子どもたちに、小学校最後の作文単元としてこの学習を位置づける。よって文章記述の仕方にチェックポイントを設け、表形式にして下書き段階、推敲段階、共同批正段階、清書段階で活用したい。チェックポイントの項目内容はそれまでの教師の指導してきた項目で柔軟に設定するのがよいだろう。一般的には次の2項目をあげたい。

文体の統一・・・常体と敬体の区別

事実と意見・考えの振り分け

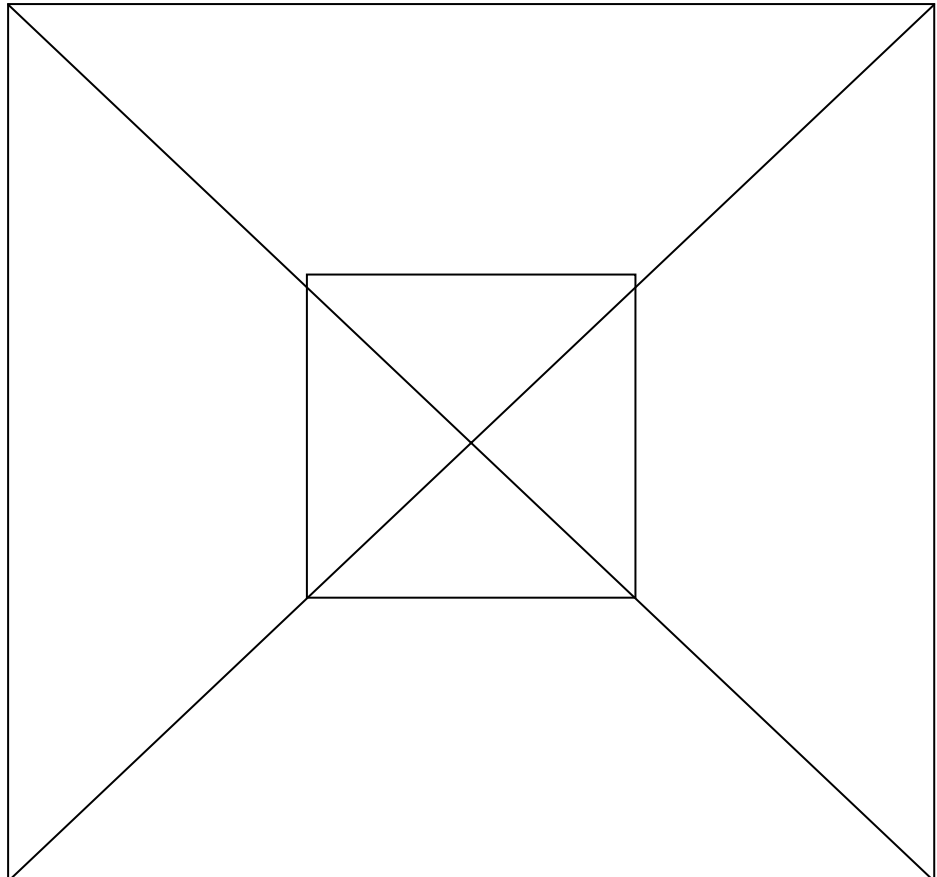
いずれも文末表現にチェックの視点がある。特に の事実と意見・考えの振り分けは自分が書く前に、他の文章を事実と自分の意見・考えに区別する学習をスキルの行的に行うことが必要である。教科書の作文例でその作業を行ってもよい。

またもう一つ記述力を高めるためには、事実の文にも書く人の心が入った表現が出てくることをおさえることが重要である。これを『気持ちの入った事実』と呼びたい。この気持ちの入った事実の文をどれだけ書けるかがその子らしい文章になるかどうかを決める。『気持ちの入った事実』とは、見る人の視点が入った事実である。比喩的な表現、情景描写的表現がこれにあたる。主観的な事実表現ということもできる。

● 学習指導計画（全 8 時間—書くこと 8 時間）

展開・時	学習活動	留意点
第 1 時	○単元のめあてと学習内容をつかむ。 ・今年 1 年間、あるいは小学校生活の心に残る人、言葉、場面を振り返る。 ・単元名から相手意識と共通テーマを確認する。 単元名「あの時、心が動いた～10 年後の自分に贈る 12 歳の心～」	・創作ノート（またはそれに代わる日記等）を短時間で振り返りながら話し合いを進める。 ・1～5 年生の文集や学級通信集なども事前に集めさせる。 ・相手・・・10 年後の自分 テーマ・・・あの時、心が動いた ・自分の心の変化や成長がはっきりと現れる題材であることをおさえない。
第 2 時	○作文例「一枚の写真」から次の 3 つを読み取る。 ・「現在—過去—現在」の構成の仕方 ・事実と意見・考えの振り分け（記述） ・気持ちの入った事実の効果（記述） ○自分の書きためたものを読み返す。	・段落分けにより明確になる。 ・事実には赤線、意見・考えに青線を引かせる。 ・事実の中で気持ちが入っている部分には青の波線を引かせる。 ・1 年間書きためたものや過去の文集などを読む時間を後半 5～10 分与える。
第 3 時	○題材の候補をについて話し合いをし、各自題材を決定する。 ・話し合いの観点は「あの時、心が動いた」というテーマをもとにする。 ○10 年後の自分に書いて伝えたい中心の考えを、一文か二文で書く。	・あくまでも自分の心の変化や成長をしっかりと捉えられるものとしたい。 （教科書 P 76 題材の例が観点になる。） ・他の児童の題材を見つける目を参考にさせ、題材選びに広がりをもたせる。 ・一文か二文で表現させることで主題が明確になるようにさせる。
第 4 時 （本時）	○対角線入り二重長方形メモで構想と構成を考える。 ・メモの書き方をつかむ。 内側の 4 つの窓、外側の 4 つの窓 対の面 ・選んだ題材と書いて伝えたい中心をもとに 4 つの窓にメモを書く。（構想） ・構想メモの 4 つの窓の内容をもとに 4 部構成を考え、メモする。	・書き表したいことを 4 つの窓に分けて書かせる。この段階から事実と意見・考えを分ける意識を持たせる。（構想） ・4 つの窓をもとに、「初め—中 1—中 2—終わり」の構成を決め、メモに赤ペンなどで書かせる。その際、4 つの窓を 4 部構成にそのまま活用してもよいし、4 つの窓の内容を分割してもよいこととする。（構成）

第 5 ・ 6 時	○ 対角線入り二重長方形カード(構想・構成メモ)をもとに、記述を工夫しながら作文を書く。 ○ 記述チェックポイントで毎時間、自分の作文をチェックする。 ・ 文体の統一…常体か敬体か ・ 事実と意見・考えの振り分け ・ 気持ちの入った事実の表現	・ 毎時間の最後に読み直しをさせ、チェックポイントに印をつけさせる。読み直して気づいた間違いは書き込ませるようにさせる。
第 7 時	○ 書いた作文を読み直し、共同批正と推敲をする。 ・ 同じグループの友達と交換し、構成と記述チェックポイントの共同批正をする。 ・ 友達のアドバイスを下にもう一度自分で読み推敲する。	* 共同批正…他の人に作文を読んでもらい、よりよいものとなるように互いに直し合うこと。 - 推敲…自分で読み直して、作文を練り直すこと。 ・ 付箋紙を活用し共同批正をさせる。
第 8 時	○ 他のグループの作文を読み合い、感想を出し合ったり、よいところを見つけ合ったりする。 ○ 「あの時、心が動いた～10年後の自分に贈る12歳の心～」文集を作る。	・ 自由になるべく多くの友達の作文を読み合える場の工夫をし、その際感想やよいところを付箋紙に書いて作文用紙に貼ってあげるなどさせる。 ・ 学級活動の時間などを利用し、文集として形に残す工夫をする。



「あの時、心が動いた～十年後の自分に贈る十二歳の心～」

作文構想メモ(対角線入り二重長方形カード)

六年一組 氏名

○ 題材

○ 書いて伝えたい中心の考え

● 本時の展開（本時 4 / 8）

目標

- ・自分が書いて伝えたいことが効果的に伝わるように構想メモ（対角線入り二重長方形カード）を書くことができる。
- ・構想メモ（対角線入り二重長方形カード）を書くことをもとに、構成の工夫につなげて考えることができる。

評価規準

- ア 作文を書くために必要な内容を踏まえて構想メモ・構成メモを書いている。（書くこと）
- イ 自分の書きたい内容に適した文章の構成の形を考えようとしている。（関心・意欲・態度）

● 展開例

学 習 活 動	指導上の留意点	評価・支援
1 めあてをつかむ。		
対角線入り二重長方形カードで構想メモを書き、構成を考えよう。		
2 対角線入り二重長方形カードの書き方を覚える。 ・一つの題材を4つの内容に分けて4つの窓に書く。 ・4つの窓には内側と外側がある。 ・内側には大体の内容、外側には詳しい内容を書く。 ・反対側の窓には対の内容のものがくるように考える。	○教師が例として構想メモ（対角線入り二重長方形カード）を書いて見せながら説明をする。 ○内側の4つの窓で書きたいことがわかるように短い表現をさせる。 ○外側の4つの窓は作文の骨組みを書くつもりで詳しく書くようにアドバイスする。 ○対の面の例の示し方 ・成功したことと失敗したこと ・努力の苦しみと達成感と満足感 ・考えの浅かった自分と考えの深くなった自分 ・現在の自分と過去の自分	○明暗の関係を見つけてみようと言助する。
3 自分の題材と書いて伝えたい中心をもとに、対角線入り二重長方形カードに構想メモを書く。 <流れ> 4つの内容決め 配置決め 内側の窓 外側の窓	○書いて伝えたい中心を4つの内容に分ける。 ○4つの内容の対の面を考えて内側の窓に配置を決めて書く。 ○外側の4つの窓にくわしく書く。	書：作文を書くために必要な内容をふまえて構想メモを書いている。
4 構想メモから構成を考える。 ・初め—中1—中2—終わりの4部構成を考える。 ・構想メモに4部構成を書き込ませる。	○対の面を有効活用させる。（暗いイメージの段落から、明るいイメージの段落へ展開することで引き立つ。） ○メモの4つの窓をそのまま活用させてもよいし、分割してもよいこととする。	書：構想メモをもとに構成メモへつなげている。 関：自分の書きたい作文の内容に適した構成の形を考えようとしている。
5 事実と意見・考えの振り分けを確かめる。（気持ちの入った事実も含める）	○前々時の学習から、自分のメモの中で事実と意見・考えの区別をする。 ○次時からの書く作業につなげる。	